

2022 年度 情報活用カプログラム（(基礎)含む）自己点検・評価結果報告書

京都ノートルダム女子大学教育センター

(令和 5 年 4 月 26 日)

1. 授業内容・方法・成果

2021 年度（令和 3 年度）に開始した「情報活用カプログラム」全体（以下、「本プログラム」）は 30 名が履修しており、「情報活用カプログラム（基礎）」（以下、「基礎」）については 2022 年度に 63 名が修了した（情報処理士資格取得者に該当）。「本プログラム」の履修生については、現代人間学部が多く、心理学専門職としてデータを扱う場合や、マーケティングや情報系の企業での分析、教員として成績処理などでの活用といったように、キャリアに生かすことを目的としていると考えられる。本プログラムの目的「情報社会において必要な情報科学の知識・技能を身につけるとともに、それらが社会に与える影響を理解した上で、新たな情報を作り出し、課題を発見し、その解決に向けて主体的に解決策を検討し、実践できる人材の育成」が適切に機能しているといえる。

それぞれの授業内容や方法について、必修科目を中心に実務経験のある教員が多く、実践的に学修できるものとしている。そうした状況もあり、「本プログラム」主要科目の授業評価アンケートからは、基本的スキルの獲得、倫理に関する認識の向上、プログラミング基礎の楽しさなど、前向きなコメントが多くみられる。一方、少数ではあるが、やや遅れを取っている学生の意見も見られ、教員とスチューデント・アシスタントによる個別フォローを充実させ対応していきたい。履修状況としては、大半の履修生が修得しており、今後、それぞれの専門の科目での応用や卒業研究でのデータ処理などに生かされることを期待する。

2. 進路状況等

「基礎」の 2022 年度修了生においては、カスタマーエンジニアや情報関連の企業への就職が認められた。そのほか、大学院への進学や教員としての就職など、それぞれの分野において、本プログラムで得られた知識や技術が生かされていることを期待する。

3. 履修者の確保のための工夫等

A I・データサイエンスへの学生の興味は近年高まってきており、今後も授業内容やカリキュラムは不断に改善を図り、現代的ニーズにあったプログラムとなるよう進めていく。

「本プログラム」の周知にあたっては、新入学生対象のオリエンテーションでプログラム受講の必要性・有用性を説明するほか、『学生便覧』、ND 教育センター公式サイトおよび大学公式サイトに詳細を掲載している。さらに、LMS の新入生専用コースに動画を投稿するなどして、プログラムに関する情報を得やすいようにしている。ND 教育センター会議においては、各学科の構成員を通じて、学生に呼びかけるよう依頼を行うなどにより周

知している。なお、すでに「本プログラム」関連科目を履修しながら「情報活用力プログラム」を登録（UNIPA 機能の資格申請で確認）していない学生も多いため、あらためて登録を促すことにより、履修者数を向上させる。

サポート体制については、必修科目を中心とした授業の資料等を LMS に掲載し、掲示板などで質問や議論ができる体制を取っている。対面では、専任教員を中心にオフィスアワーを設け、相談に対応している。情報技術に関するサポートについてはシステム管理課において、プログラムに関する履修相談については ND 教育センター事務室で受け付けている。加えて、プログラム必修科目や情報技術を中心とする科目については、2022 年度に新設したスチューデント・アシスタントによるサポートも行っている。また、主要科目担当教員（専任・非常勤）によるワーキングを定期的実施し、履修生の情報共有や学修支援について検討している。